

No.44 2011・11・25

ボランティアセンターだより

発行

社会福祉法人 笠間市社会福祉協議会ボランティアセンター

〒309-1704 笠間市美原3-2-11 TEL 0296-78-2626 FAX 0296-78-2626

平成23年度 笠間市ボランティア研修・交流会



7月7日

友部社会福祉会館で午前の部は茨城大学高妻孝光教授による「放射線と食生活環境」の講演会



午後の部はレクリエーションインストラクター武藤幸枝氏によるレクリエーション

がんばらう！ 笠間。

10月23日『ふるさとまつり in かさま』 10月30日『岩間公民館まつり』



大学いも売ゆき上々



福祉バザーで参加



岩間保健センターで値付け

楽しく活動できる地域社会を 三地区、力を合わせて



笠間市ボランティア
連絡協議会会長
太田 寛子

本年度より、ボランティア連絡協議会の会長を引き受けました。ボランティアの皆様のお借りしながら活動していこうと思っております。

三地区（岩間・笠間・友部）で、社協に登録し福祉ボランティア活動をしている人達は一、〇〇〇名以上おりますが、三地区ともボランティアの高齢化が進んでおります。先輩ボランティアの経験を生かしながら、新しい若い力の参加が必要となります。

一人でも多くのボランティア確保のため、皆様のまわりの方々の中に少しでも、空いている時間がある方、ボランティア活動に関心をお持ちの方、きつと自分に合ったボランティア活動があると思います。

ボランティア活動は、誰かのお役に立ちながら、自分自身を高め、生きがいに繋げていきます。地域社会の活性化のためにも、是非、皆様の参加をお待ちしています。

みんなで「福祉のまち」を つくっていきませんか



笠間市社会福祉
協議会事務局長
菊池 治

笠間市社協では、「みんなでつくる福祉のまち・誰もが安心して暮らせる地域社会づくり」を目指して活動しておりますが、その担い手の中心がボランティアさんです。

現在、社協登録のVサークル数は、八十七で、一、〇二〇名の方々が様々な活動を行っておりますが、担い手の方の高齢化や後継者不足がほぼ共通の課題となっております。

そこで、この課題の早期解決とV活動を一層支援していくため、

※Vはボランティアの略です。

め、本年度からV総括推進員をおくと共に、笠間地区と岩間地区担当のV推進員を新たに配置し、体制を強化いたしました。これからも心を新たにVセンターを中心としてVの発掘・育成・団体の支援に懸命に取り組んでまいります。

市民の皆様、「福祉のまちづくり」のため、一緒にV活動をしていきませんか。

ボランティアが一丸となって

「ふるさとまつりinかさま」

福祉バザー準備会



山のように
積まれた
衣類の値付け



おいしいカレーで



うまぐできたかナァ

「ふるさとまつりinかさま」が、十月二十二日（土）～二十三日（日）、笠間市みどりの広場（畜産試験場跡地）で、開催されました。笠間市ボランティア連絡協議会友部支部では、福祉バザー、手作り品、赤飯、大学いもなどの販売で、参加しました。

十月半ば、ボランティアセンターに届けられた善意の品物を、70人のボランティアが、値付けをしました。

昼食のカレーづくりは「配食みちくさ」の男性が担当し、ボランティアが一丸となって「ふるさとまつり」の準備をしました。

夏休みわくわく体験教室



笠間市社会福祉協議会では、夏休みの期間を利用して、各ボランティアサークル会員を講師に小学生親子を募集し、「夏休みわくわく体験教室」を実施しました。今年は、34教室が開催され、延べ622人が参加し、いろいろな福祉体験をしました。



〈笠間・7教室〉

○パステル画教室 7月29日



笠間小2年生のお母さん

親子一緒に楽しみました。大人でも子供でも上手に描けた気がして嬉しい気持ちになり、いい経験になりました。

笠間小5年 男子

手でぼかしながら、絵を描きました。2作目は、好きなものをつくれたので、ぼくは、少しむずかしいものに挑戦しました。思った以上に上手にできました。

〈岩間・9教室〉

○布ぞうりづくり 7月27日



岩間一小1年生のお母さん

布ぞうり作りは、編んでいくうちに楽しくなってきました。今年、子供が裸足で布ぞうりをはいて、夏休みを過ごしているのが、目に浮かびます。親子で、いい体験をさせていただきました。

岩間一小3年 女子

はじめての布ぞうりづくりはあむのが、むずかしかったです。でき上がったときは、気持ち良かったです。

〈友部・18教室〉

○要約筆記 7月25日



友部二小3年のおばあちゃん

参加してみて、子供達の真剣な姿を見ることができ、とても、ホッとしました。これからも、子供達に福祉の体験の場を設けて頂けたらいいと思いました。

友部二小3年 男子

ヘッドイヤホンを使って話すあまり聞こえないので、びっくりしました。この体験をして、耳の不自由な人の気持ちが、分かりました。

○幼児と遊ぼう 8月11日



友部二小5年 男子

今回、ぼくは妹の保護者役になりました。折紙のせみづくりは簡単につくる事ができました。つくしんぼの子供達と遊んだとき、「かわいいなあ」と思いました。たまたま、つくしんぼ教室に行って小さな子供と遊びたいなあと思いました。

友部二小3年 女子

今日は、ボランティア「さくらんぼ」の人たちが、おり紙をおしえてくれました。私は、赤ちゃんとおそびました。今日は、たのしくてうれしいと思いました。

3.11 東日本大震災で

大震災発生時の

笠間市協ボランティアセンターの動き



笠間市災害ボラ

3/11	地震発生 ・市より炊き出しテント運搬等の要請あり ・社協の介護保険利用者（ひとり暮らし高齢者等）を避難所へ誘導 ・ヘルパーが訪問先の高齢者の安否確認に出向く ・デイサービスや生きがいデイ等の利用者宅を訪問し安否確認をする ・社会福祉会館が避難所になる（避難者 30 人） ・いこいの家「はなさか」が避難所になる（避難者 100 人） ・社協職員が早番、遅番、夜勤等の役割り勤務へ
3/12	・ヘルパー利用者の高齢者宅を安否確認のため訪問開始 ・避難所へ炊き出し開始 ・社会福祉会館の2階調理室を使い友部地区避難所6ヶ所のうち、友部小体育館と社会福祉会館およびいこいの家「はなさか」へ
3/14	・笠間市災害ボランティアセンターを立ち上げる ・ボランティア活動者の登録、支援活動開始 ・義援金の受付、募金箱の設置など ・炊き出し ・ひとり暮らし、高齢者世帯等でのがれき片付け ・ひとり暮らし、高齢者世帯等での家の中の片付け
3/19	・県教育研修センターにいる福島からの避難者へ炊き出し要請があり、昼食と夕食の支援開始
4/9	・県教育研修センターへの炊き出し支援終了
4/19	・笠間市災害ボランティアセンター閉鎖

大きなポリ桶に井戸水を入れて自宅から運んでくれた方、白米30kgをセンターへ持ち参し、数日間炊き出しを手伝ってくれた市内の方、卵、野菜、

つきたて餅、漬物などを届けてくれた農協直売所の関係者など多くの方々から様々な救済物資をいただきました。ご支援に感謝申し上げます。

食料品・生活用品の寄付

米、野菜、味噌、醤油、砂糖、缶づめ、牛乳、つきたて餅、赤飯、卵、くだもの、漬物、乾麺、焼きのり、しいたけ、豆腐、レトルト食品、カップ麺、飲料水、井戸水、タオルや肌着などの衣類、洗剤、石鹸、オムツ、日用品など

様々な救済物資に感謝



消耗品は大助かり

県教育研修センターに福島からの避難者があり、県災害本部から炊き出しの要請があり、昼食と夕食を支援することになりました。

日頃食事サービスをしているボランティアや支部社協女性部に協力してもらい、今回登録の若いボランティアと一緒に、ローテーションを組み食事支援を22日間続けました。

JA茨城の直売所から野菜や食品の支援を多数受け、メニューも増え、心のこもった食事を届けることができました。



県教育研修センターの調理室で炊き出し

県教育研修センターへの炊き出しも

私達ができたこと

ンティアセンター

東日本大震災から早くも八ヶ月が過ぎました。「がんばろう○○」を合い言葉に全国各地で、また市内でも復興に向け、様々な取組みがなされておりますが復興までには少し時間がかかるようです。

震災直後の3月14日、市社協ではボランティアによる救援活動を行うため『災害ボランティアセンター』を立ち上げ、ボランティアの登録と被災された方々への支援を行ってまいりました。被災直後の様子や支援活動の一端を紹介します。

社会福祉会館が 避難所に

3月11日の夕方、社協では社会福祉会館のデイサービス室が避難場所に決まりました。タヤみがせまる中、福祉会館入口には自家発電機が設置され、投光機等も取り付けられ、酸素ボンベの必要な高齢者や寝たきりの方などが、自宅から避難してきました。それに伴い社協職員は介護資格者や看護資格者が避難者を見守るために夜勤に、その他は午前7時から午後7時までの勤務態勢となりました。

避難所へ 炊き出し開始

社会福祉会館2階調理室で

市社協では、東日本大震災後の3月14日に、ボランティアによる救援活動を行うため『災害ボランティアセンター』を立ち上げました。災害ボランティアには、春休みも重なって高校生や大学生、社会人など若い方から年配者まで、多くの市民が登録し、活動をしていただきました。

東日本大震災 復興支援 笠間市 災害ボランティアセンター

Vセンターは「友援の会」が常駐

ボランティアセンターには災害救援ボランティア「友援の会」が常駐し、がれきの片付けなどの依頼が入ると、訪問し内容を確認ボランティアを派遣しました。高校生や大学生などの若い力は利用者の高齢者から大変喜ばれました。

災害ボランティアセンター閉鎖までのおもな活動

市内ボランティア登録者 156人と10団体	
炊き出し	257人
屋外の片付け	46人
部屋の片付け	23人
避難所支援	21人
教育研修センターでマッサージ、読み聞かせ、レクリエーションなど	28人
計	375人

断水のため給水車を福祉会館へ回してもらい、大ナベ、ボール、バケツなどに汲み入れ、2階の調理室まで職員、ボランティア総出で運び込みました。



みんなで協力して

は12日から炊き出しが始まり、大きなガス釜2ヶがフル回転、50kgの米を次々と炊き、当初は市役所の職員と社協職員とでおいぎりを一日中作っていました。

震災直後、ヘルパーや介護支援専門員が手分けをして訪問先の高齢者の安否確認に出向きました。

ひとり暮らしの高齢者を友部中の避難所へ連れていくと、体育館は人でいっぱい。友部駅付近で電車が止まってしまい乗客が友部中へ避難し、一時は650人にもなりました。



がれきの撤去

ヘルパー、介護支援専門員が 高齢者宅へ安否確認に



新サークル紹介

友部支所

『お達者ランチ会』 手作り弁当で和気アイアイ昼食会



ホカホカおでん



毎週変わるメニュー



みんなで食事

友部地区のいきいき通所事業「お達者倶楽部」の利用者の方々に、3市町の合併以前のよう、手づくりの昼食を提供してあげたいという思いから、「お達者ランチ会」が、今年5月に活動を開始しました。メンバーは、34名です。

活動は、月曜日・金曜日（火曜日と第三金曜日は給食ボランティアが対応している）。ひとり月二回と決め、3〜4名のグループで、無理のないローテーションを組んでいます。調理後は「お達者倶楽部」の方々と、一緒に食事を楽しんでいます。

利用者の方々から、手づくりならではの、◎バランスがよく家庭的な味付けで安心できる、◎季節感があって目にも楽しい、◎体にやさしいメニューなど、大変好評です。

『笠間市スクエアステップリーダー会』 楽しく認知症予防・健康維持のために

笠間市スクエアステップリーダー会

会長 廣水 千加代

笠間市スクエアステップリーダー会は、筑波大学助教授の大蔵倫博先生チームと笠間市高齢福祉課の包括支援センターの協力を得て平成二十二年四月発足しました。

会員は一定の講習を受けて指導資格を得た人達で構成されています。

活動は、

①各地区の公民館（集会所）で自主活動サークルでの指導。

②筑波大学が行っている介護予防事業（スクエアステップ教室）のサポート

③地域包括センターの長寿健診・体力測定サポート等、各種団体の健康教室、各地域のシルバークラブでの健康教室のサポート等。

友部支部では、現在二十一名で

①友部公民館（火・水）午前10時〜

②原店公民館（金）午前10時〜

③大沢下・中三公民館（月）午前10時〜

④社協大戸支部会館（火）午後2時〜

⑤柿橋団地公民館（木）午前10時〜

で活動しています。

笠間支部 代表 佐藤 正子

笠間支部では、現在十八名で

①笠間公民館（木）午後2時〜

②稲田公民館（月）午前10時〜

③寺崎公民館（水）午前10時〜

④高田公民館（火）午前10時〜

で活動しています。



手・足を高く上げて



まっすぐ歩けるかな

笠間支部では、社協ミニデの健康教室のサポートに力を入れ、友部支部と肩を並べた活動を心掛けています。体験の希望がありましたら、是非お声をかけて下さい。

トピックス サークル紹介



ご存知でしたか
活動を始めて4年たちました。



中途失聴者・難聴者の社会参加を支援するための情報保障活動です。要約筆記とは、聞こえない・聞こえにくい方に、要約筆記者が音の情報や話し手の言葉をその場で筆記して伝えます。話す速さに追いつくために話の内容を要約したり、言葉を置き換えたりします。方法として、講演会等ではOHPを利用したり、聞こえない方の隣で、紙に筆記して伝えるノートテイクなどがあります。『若葉』定例会では、テープを聞きながら速く・正しく・読みやすく書けるよう、日々学習しています。お困りの方がいましたら、お手伝いしますのでご相談下さい。

要約筆記「若葉」

代表 諏佐かづ子



緊急時いち早く、
安否確認連絡網



下市毛会館で防火訓練

しだれ桜ボランティア会は、区長さん、民生委員さんを含む男性二名、女性十六名の会員で活動しております。
主に、独り暮らしの高齢者の方への月二回のお弁当配食（七月・八月は休み）、みなみ公民館での年六回のミニデイサービスの手伝い、年二回のふれあい会食・配食では、独り暮らしの高齢者に温かい手作りのご馳走を提供しております。また、区の敬老行事のお手伝い、自主防災会の給水・給食班としての防災の協力をしております。
三月十一日の震災の際は想定外の状況下にもかかわらず、区長を中心にボランティア会員が速やかに独り暮らしの高齢者や障害者のもとに炊き出しのおにぎりを届け、直後の連絡会では、緊急時での安否確認の必要性を痛感し、ボランティア会員全員で担当者を決め、緊急時安否確認網を作成しました。会員一同、地域を支える一助として、活動の輪を広げていきたいと思っております。

しだれ桜ボランティア

代表 古橋 恵子



お弁当のかけ紙は
私達が作っています



夏休み
わくわく体験で



折り紙のふくろうをつかって



季節の花の絵をそえて

毎週月曜日に配達される、お弁当のかけ紙を作成している8人のグループです。
かけ紙には、ボランティア手作りのお弁当の献立の紹介をしたり、ひと言季節の挨拶をそえたりしています。墨画のやさしい絵も暖かい気持ちを伝えるのに役立っていると思います。
季節の行事（ひなまつり、五月の節句、七夕さま、クリスマス）等の折り紙も、献立表と共にお届けしています。そのため勉強会もしています。
これからも、自分達の言葉で想いを伝えながら、月曜日が待ち遠しいような作品をお届けしていきたいと願っています。

ボランティアサークルおたよりがかり

代表 久保田満子



ボランティア会員の募集



岩間支所

ふれあい電話	毎週金曜日 13:30～15:30 活動場所:岩間保健センター ひとり暮らしの高齢者(希望者)宅へ安否確認の電話をする。
おもちゃ図書館「ピノキオ」	毎月第3火曜日 10:00～12:00 市民センターいわま子育て支援センター「くりのこ」を使用して、おもちゃを通し、親子のふれあいを持つ遊び場の提供とおもちゃの貸し出しを行う。
配食サービスボランティア	配食活動、毎週月曜日 8:30～13:00 いきいき交流活動、毎週水・金曜日 8:30～13:00 配食サービスはひとり暮らしのお年寄りに手作りのお弁当を作り届ける。 いきいき交流活動は、介護予防事業で福祉センターに来所するお年寄りに昼食作りとお年寄りとの交流活動。現在は8サークルに分かれ活動中。 活動場所は福祉センターいわま。

笠間支所

福祉体験ボランティア	笠間市内の学校で、児童を対象にシニア体験や車イスなどの福祉体験のサポートを行うボランティア。活動は随時
笠間点訳の会	点訳の習得、点字図書館の点訳本づくりや児童に対しての点字指導を行っています。 活動は、第1、3水曜日 14:00～15:30
配食	ひとり暮らしの高齢者に、食生活支援と心のふれあい、安否確認を目的として、配食サービスを月1回行います。 新しく笠間支所で始まります。

友部支所

学校支援ボランティア	友部中学校での家庭、調理、木工等の授業のサポート活動。授業を通して、児童の育成や地域のボランティアとの交流を行う。活動は随時
配食みちくさ	男性のみによる独り暮らし高齢者へ配食サービスを行います。料理づくりが初めての方も、楽しく学びながら作っています。 活動は毎月第1、2土曜日 9:00～13:00
穴戸苑散歩ボランティアあひるの会	特別養護老人ホーム「穴戸苑」入所者の散歩の付き添い、行事のサポートを行うボランティア。穴戸の自然を感じながら利用者の方と交流します。 活動は毎月第2金曜日 9:30～11:30

景色のよい福祉センターいわま 「ひとやすみ」でおいしいおそばをいかがですか!



一杯500円!

ボラ連協岩間支部の24番目にしてきたサークル「やすらぎ」は、愛宕山中腹の福祉センターいわままで毎週木曜日に開店しているそば屋「ひとやすみ」のボランティアです。そば打ちはこの道30年の方で、ボランティアは薬味・漬物・小鉢の準備をし、天ぷらを揚げ配膳します。そば打ちも覚えられると会員さんからはとても好評です。誰でも利用することができ、ワゴン車で食べられます。おいしいおそばとボランティアの心のこもった接待が皆様をお待ちしています。

* ボランティア活動に関することは笠間市社会福祉協議会までお問い合わせください。

笠間支所	石井 717	TEL 0296-73-0084	FAX 0296-72-3722
友部支所	美原 3-2-11	TEL 0296-77-0730	FAX 0296-78-3933
友部ボランティアセンター		TEL 0296-78-2626	FAX 0296-78-2626
岩間支所	下郷 5139-1	TEL 0299-45-7889	FAX 0299-45-6250

